

『WASEDA RILAS JOURNAL』（早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌）

掲載論文等執筆要項

【1】掲載論文等

早稲田大学総合人文科学研究センター（以下「人文研」とする）のオンラインジャーナル『WASEDA RILAS JOURNAL』（早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌、以下『JOURNAL』とする）に掲載される論文等は、「掲載論文等に関する規定」の「【2】『JOURNAL』に掲載される内容（種別）」に定められている(a)～(e)の5種類とする。

【2】掲載論文等執筆者の資格

「掲載論文等に関する規定」の「【1】投稿資格」に従うものとする。

【3】原稿の体裁、使用言語、英文のタイトル・アブストラクト等

「掲載論文等に関する規定」の「【4】原稿の体裁、使用言語、英文のタイトル・アブストラクト等」に従うものとする。

（1）文字数

- ・ 「掲載論文等に関する規定」の「【2】『JOURNAL』に掲載される内容（種別）」に定められた種別、および使用言語※に基づき、文字数は以下の3パターンとする。

パターン1

- (a) 研究部門の開催するフォーラム、シンポジウム等での研究発表もしくは研究報告にもとづく論文。
- (b) 自由投稿論文。
- (c) 投稿資格を有する者が希望する研究ノート、報告、記録、翻訳、翻刻、書評等。

和文・中文・朝鮮語の場合は20,000字以内。ただし、半角文字は0.5文字としてカウントする。欧文の場合は12,000 words 以内とする。タイトル・注記も、本文と同じく所定の字数に算入される。

パターン2

- (d) 【部門特集1】人文研が主催、共催、後援した各種イベントの論文集。

執筆者別の単著とし、執筆者ごとに和文・中文・朝鮮語の場合は15,000字以内。ただし、半角文字は0.5文字としてカウントする。欧文の場合は9,000words 以内とする。タイトル・注記も、本文と同じく所定の字数に算入される。執筆者別にファイルを分けて提出し、『JOURNAL』にも執筆者別に掲載する。

パターン3

- (e) 【部門特集2】人文研が主催、共催、後援した各種イベントの要旨集・記録など。

執筆者全員の共著とし、部門ごとに和文・中文・朝鮮語の場合は27,000字以内。ただし、半角文字は0.5文字としてカウントする。欧文の場合は16,000words 以内と

する。タイトル・注記も、本文と同じく所定の字数に算入される。部門の担当者が原稿を一つのファイルにまとめて提出し、『JOURNAL』にも一つの要旨集・記録として掲載する。ただし、目次ページでは各報告のタイトルも記載する。

- ※ 使用言語が複数にまたがる場合、半角英数の単語数に対して 0.6 を割り戻して文字数相当とするか、全角文字または半角のカタカナに 0.6 を掛けて単語数相当として概数を算出する。

(2) 原稿の体裁

- ・ 用紙サイズは A4 判、縦書き・横書き共に可。
- ・ 原則として Microsoft Word により作成（それ以外のソフトの場合、本文のテキストデータを用意すること）。
- ・ 使用フォントは、和文の場合 MS 明朝体、欧文の場合は Century 等とする。ただしギリシア、キリル文字の場合は汎用性のある Palatino Linotype が好ましい。中文及び朝鮮語の場合も汎用性のあるフォントを使用すること。共に 10.5 ポイントとする。
- ・ 提出原稿での註は、横書き論文の場合脚註とし、縦書き論文の場合文末註とする。参考文献があれば論文末尾に置く。
- ・ 図版出典が必要な場合は論文の最後に付す。
- ・ 図表・写真のスペースは所定の文字数に含まれない。トリミングなどを済ませた完成サイズで、解像度は 300dpi 以上を推奨する。ファイル形式は図・写真の場合 .jpg、.tif、.ai、表の場合は .xlsx での提出を推奨する。
- ・ 多量の図表・写真を必要とする場合には、投稿申請の際に申し出て、人文研運営委員会の許可を得ること（ただし図表・写真によっては解像度を圧縮して公開する場合がある）。

(3) 使用言語

使用言語は、原則として日本語・英語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語に限るが、引用本文、注記等についてはその他の言語を用いることを可とする。ペルシャ語・ヘブライ語・アラビア語などの外国語はローマ字化すること。なお、人文研主催のフォーラムにおける基調講演・研究発表等にもとづく論文については、その使用言語が上記に含まれない場合も可とする。

- (4) 「掲載論文等に関する規定」の「【2】『JOURNAL』に掲載される内容（種別）」に定められた種別のうち(a)・(b)・(c)については、英文のタイトル、300語程度の英文のアブストラクト、執筆者氏名のローマ字書きを提出すること（これらは論文の所定文字数に算入されない）。ただし(c)のうち書評には英文アブストラクト不要とする。なお、英文のタイトルとアブストラクトについては、審査によって掲載が決定したあとに提出するものとする。

【4】投稿方法

「掲載論文等に関する規定」の「【6】投稿方法」に従うものとする。

(1) 5月末日までに所定の Box にアップロードすることを原則とする。

【投稿データ】

論文投稿時

- ・ 論文原稿（原則 Microsoft Word を使用。その他テキストデータも可）
- ・ 図表・写真を用いる場合は、論文レイアウト（刊行時のレイアウトにおおよそ基づいて図表・写真を配置し PDF に変換したデータ。図表・写真の大きさと位置を指示しても構わない。※レイアウトを編集者に委ねる場合はその旨をメールに付記すること。）
- ・ 図表・写真データ（ファイル形式は【3】（2）を参照）

掲載決定後

- ・ 氏名のローマ字表記（「名+姓」の順を原則とする）、英文のタイトル、アブストラクト
日本語以外の論文は、氏名の日本語表記も添えること
- (2) 図版等掲載のためにデータの容量が大きくなる場合は、別途 CD・USB メモリー等の外部記憶媒体、大容量ファイル送信サービス（宅ファイル便、Firestorage、Wetransfer 等）によって提出することも可とする。
- (3) プリントアウトした原稿の提出は原則として不要。ただし、異体字等の特殊な文字を使用している場合など、原稿中で特に指定の必要な箇所については、プリントアウト原稿（A4 判）に必要な指示を赤で入れて、PDF ファイルで添付すること。

【5】著者校正

著者による校正は二校までとする。校正は誤りの修正に留め、内容変更は原則として認めない。

【6】論文の PDF ファイル

論文執筆者には、『JOURNAL』の刊行後、抜刷に代えて、各々の論文の PDF ファイル（表紙付き）を送付する。この PDF ファイルについては、執筆者が自由に配信したり、自身の HP 等に掲載したりすることを可とする。

【7】引用資料の著作権の扱い

論文執筆者は、自らが著作権等を有しない報告・資料・図版などを引用するに際しては、原稿中に必ず出典を明記し、かつ必要とされる場合には、その著作権等所有者の許諾を得なければ

ばならない。

【8】経費

掲載論文執筆に必要な諸経費（著作権等処理の費用等を含む）は、論文執筆者本人の負担とする。

【9】本要項の改定

本執筆要項の改訂は、人文研運営委員会の議決による。

付則：本要項は 2013 年 4 月 1 日から施行する。

付則：本規定は 2016 年 7 月 6 日の総合人文科学研究センター運営委員会の承認を受けて改正し、2016 年 11 月 1 日から施行する。

付則：本規定は 2018 年 2 月 28 日の総合人文科学研究センター運営委員会の承認を受けて改正し、同日から施行する。

付則：本規定は 2019 年 2 月 27 日の総合人文科学研究センター運営委員会の承認を受けて改正し、同日から施行する。

付則：本規定は 2020 年 2 月 26 日の総合人文科学研究センター運営委員会の承認を受けて改正し、同日から施行する。

付則：本規定は 2021 年 2 月 24 日の総合人文科学研究センター運営委員会の承認を受けて改正し、同日から施行する。

付則：本規定は 2023 年 2 月 24 日の総合人文科学研究センター運営委員会の承認を受けて改正し、同日から施行する。